

強度行動障害がある者へのチーム支援

NPO法人 よつ葉福祉会：てんとう虫



所長：榎本 恵理

和歌山県での取り組み (大久保先生からの学び)

大久保 賢一先生

- 畿央大学教育学部現代教育学科 教授
- 畿央大学院教育学研究科教育実践学専攻 教授
- 一般社団法人日本ポジティブ行動支援
ネットワーク 代表理事

- ポジティブ行動支援

「ポジティブ行動支援」とは？

- “Positive” な行動を・・・
- “Positive” な方法（肯定的・積極的） で・・・

促して本人と周囲の人々の生活の質・人生の質
(QOL) を向上させる

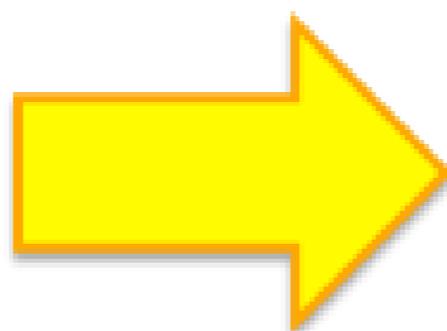
* 応用行動分析学 (ABA) に基づくもの

「強度行動障害」に対する有効な支援の必要性

支援者を感情的にしてしまう行動

対応法がわからない(何度言ってもきかない)

他傷他害
破壊
支援の拒否
自傷
飛び出し
反芻
便いじり
など

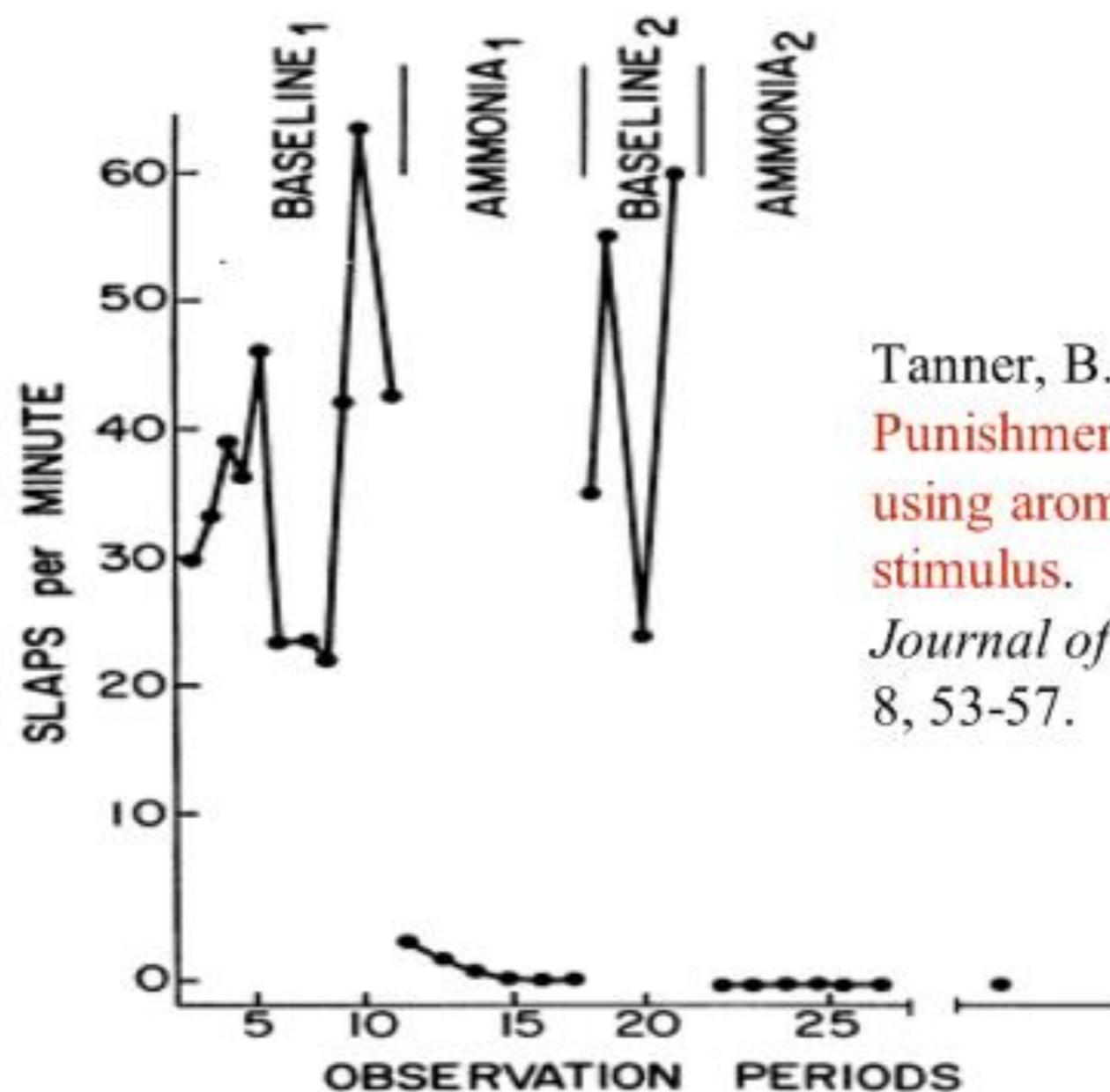


身体的虐待
心理的虐待

行動障害の理解と対応の方法を知ること
職員や家族が共通理解して実践すること

問題行動に対する罰的な対応の 問題点

嫌悪刺激を用いた研究



Tanner, B. A. & Zeiler, M. (1975).
Punishment of self-injurious behavior
using aromatic ammonia as the aversive
stimulus.
Journal of Applied Behavior Analysis,
8, 53-57.

Fig. 1. A record of an autistic woman's face slapping during experimental sessions under baseline and punishment conditions.

ディスカッション

「罰的な対応」の問題点を考える

- ・ 罰的な対応には、確かに「問題行動をやめさせる」効果があるようです
- ・ しかし・・・罰的な対応だけに頼ってしまう問題点は、何でしょうか？

罰的な対応の問題点

-

-

-

罰的な対応の副作用

- 罰に慣れてしまう
- 「見つからないようにやる」ということだけを学ぶ
- 罰を与える人との関係が悪化する
- 無気力で臆病になる
- 他者をコントロールするとき「罰を使えばいい」というモデルを学習してしまう

罰的な対応だけでは なかなかうまくいかない

- 以上のような理由で、「罰的」、「嫌悪的」、「強制的」な方法だけではうまくいきません
- そのことを関係者に理解してもらうことも大切なことです
- 「それでは、問題にどう対処すればいいのか？」という具体的な方法論についてこの後紹介していきます

「必要なこと」は何か？

- 「虐待はダメ」だけでは多分ダメ
- 利用者に対して適切な教育や環境設定が必要のように…
- 支援者にも教育や環境設定が必要！

「必要なこと」は何か？

- ・ 行動障害に関わる虐待を無くしていくための、禁止や拘束、罰的な手続き以外の具体的な方法論
 - ・ 行動を理解するための枠組み
 - ・ 行動理解に基づき支援計画を立案するための様式・プロセス
 - ・ 具体的な支援方法・指導方法
- ・ 支援を継続的に実施するための、組織的なバックアップ

ポイント①

- 知的障害や自閉症に対する基本的な理解

知的障害や自閉症のある方によく見られる困難性の例 ～困難性を十分に理解しているか？～

•

- 言ってわからなければ、伝え方をかえなければならない

•

- 注意が逸れやすかったり、没頭しすぎてしまう

•

- 我々とは様々なことに対する感じ方が違うので、意外なことが辛かったりするのかも…

•

- 実は予測性が乏しいことに対する不安なのかも…

注意 (Attention)

- 集中 (Concentrate) と解放 (Release)
- 「集中すること」とは「他のことを無視すること」
- 自閉症の特性のある方は、注意の範囲が狭い、細部に集中する傾向がある

『心の理論』の問題

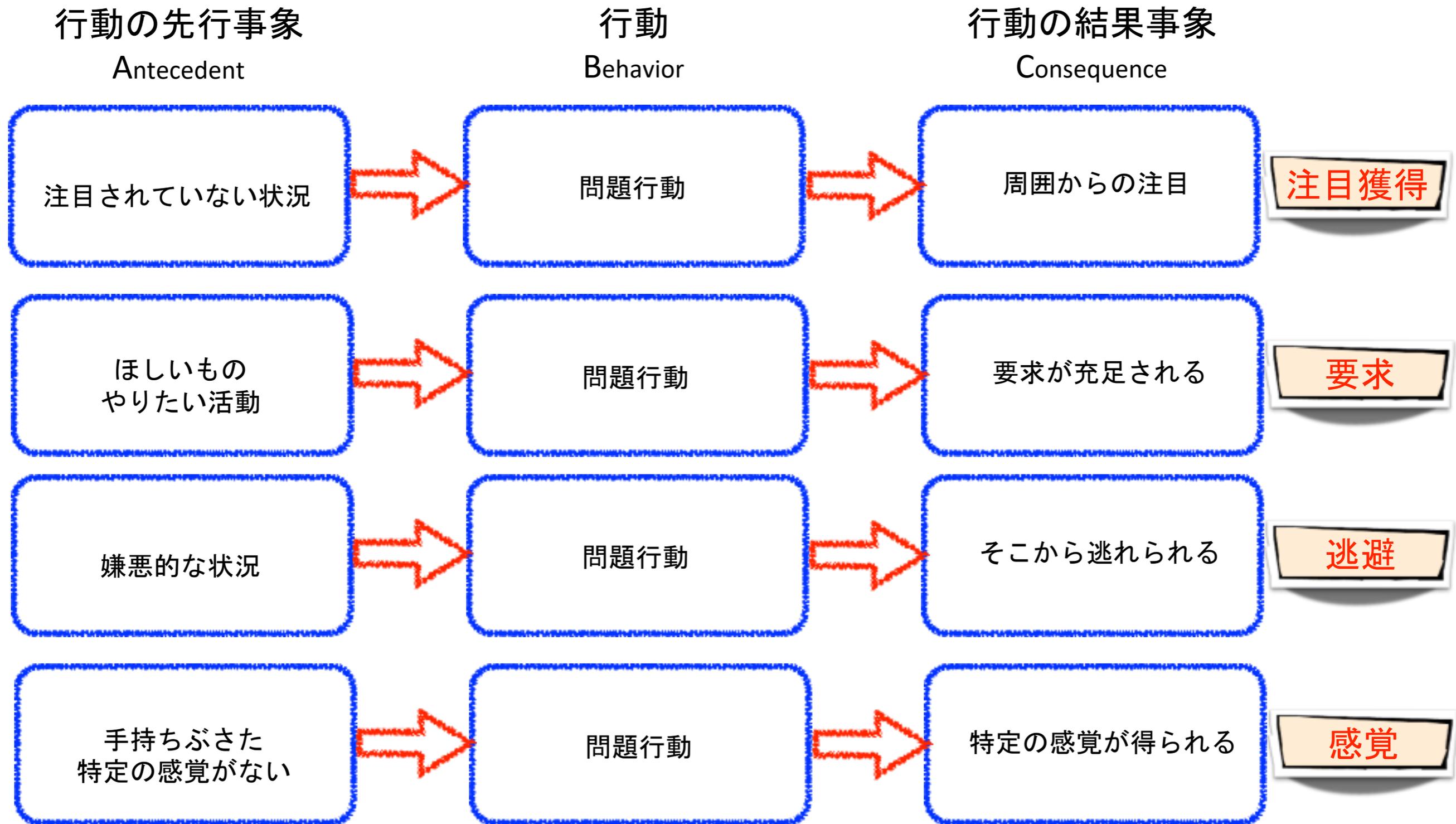
- ・ 他者の表情や感情、心的状態を推測することが苦手
 - 共感・同感ができづらい
 - 他の人の立場に立って考えられない



ポイント②

- 行動を理解するための枠組み

問題行動には「理由」(機能)がある



行動には理由（機能）がある

- 人は行動によって何かを得ている、あるいは何かから逃れることに成功している
- 「行動障害」や「問題行動」と思うのは、我々の立場からの見方に過ぎない
- 利用者にとっては「必要な行動」であるかもしれない
- 「行動の目的」それ自体には何の問題もない
- 「理由に応じた対応」が必要

問題行動を強化し、維持させている結果事象

- 問題行動が起こり続けているということは…
- 利用者さんはその問題行動によって
 - 何かを得ている（正の強化）
 - 何かから逃れている（負の強化）

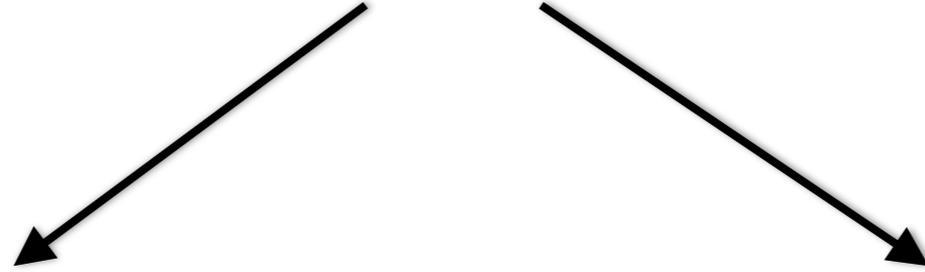
注目獲得

要求

逃避

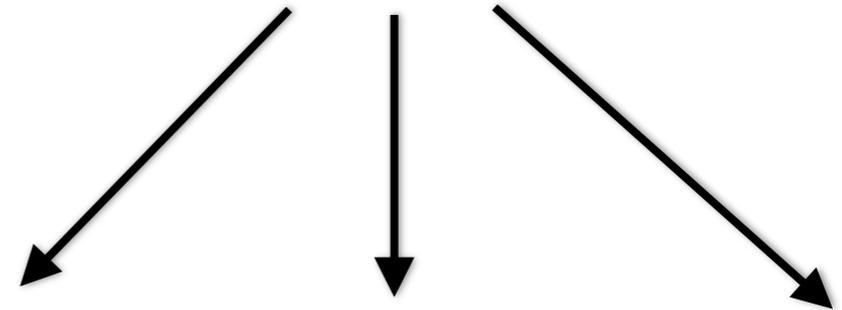
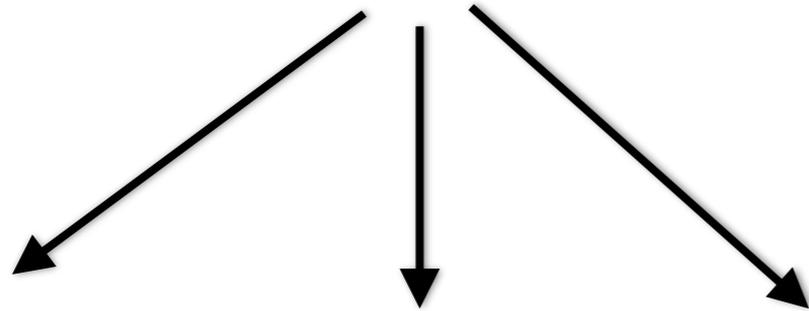
感覚

問題となる行動によって・・・



あるものを得ている
(正の強化)

あるものから逃れている
(負の強化)



他者からの注目
「もっと私のことを見て」

ものや活動
「〇〇がほしい」
「〇〇を試してみたい」

感覚
「〇〇が心地いい」

他者からの注目
「私にかまわないでほしい」

ものや活動
「〇〇をださないで」
「〇〇をしたくない」

感覚
「〇〇が嫌だ」
「〇〇を忘れたい」

・ 行動が起こりやすくなる時

・ 1. 行動→好ましい刺激が出てくる→行動の頻度が増加する。

・ 2. 行動→嫌な刺激がなくなる →行動の頻度が増加する。

※正の→出てくる 負の→なくなる 強化→行動が増える 弱化→行動が減る

・ 行動が起こりにくくなる時

・ 3. 行動→嫌な刺激が出てくる →行動の頻度が減る。 正の罰

・ 4. 行動→好ましい刺激がなくなる→行動の頻度が減る。 負の罰

・ 5. 強化されていた行動→何も起こらない→一旦、行動がエスカレート
→行動が減少。

※着眼点：行動した後→本人にとってプラスに作用する事柄なら、行動は増える。

本人にとってマイナスに作用する事柄なら、行動は減る。

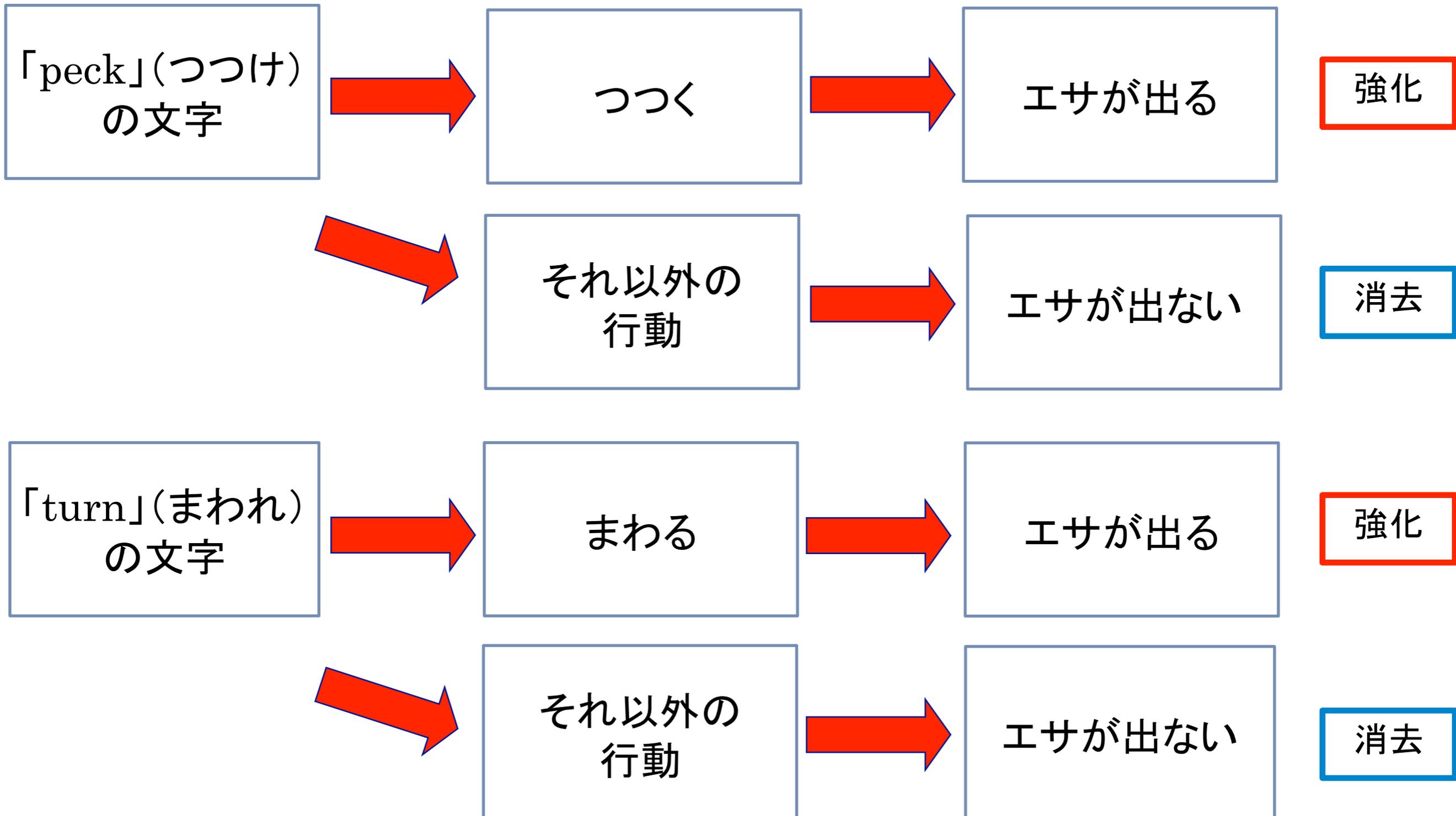


ハトも「行動のABC」を学習する！

行動の先行事象
(Antecedent)

行動
(Behavior)

行動の結果事象
(Consequence)



A white duck is shown in profile, pecking at a small, rectangular sign attached to a teal wall. The sign has the word "PECK" written on it in bold, black, capital letters. The duck's beak is positioned directly over the sign. The background is a plain teal wall with some faint, indistinct markings. The overall image has a slightly grainy, vintage quality.

PECK

「行動のABC」の例

行動の先行事象
(Antecedent)

行動
(Behavior)

行動の結果事象
(Consequence)

嫌な仕事・課題

嫌々やる

誰も誉めてくれない
次の課題が出てくる

消去

かんしゃく
仮病

「じゃあやら
なくてもいいよ」

強化

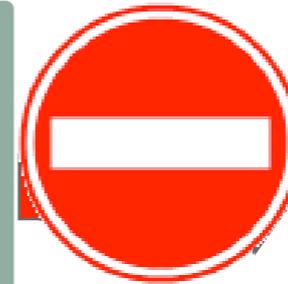
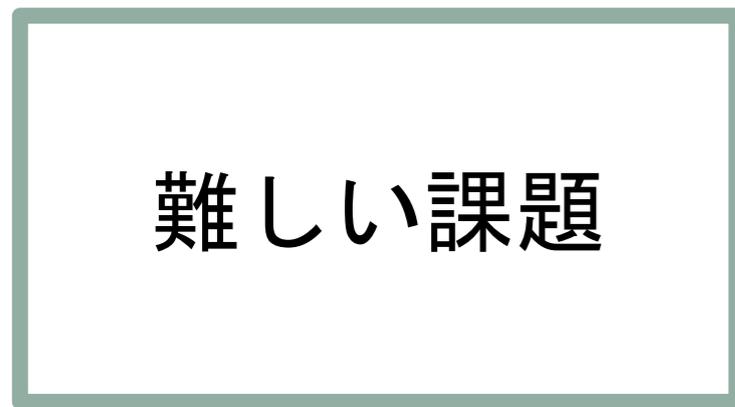
• 課題や活動の内容や量が本人の実態に合っていない

• かんしゃくや仮病の原因は、本人の障害？性格？生育歴？
• それらは影響しているかもしれないが、間接的要因に過ぎない

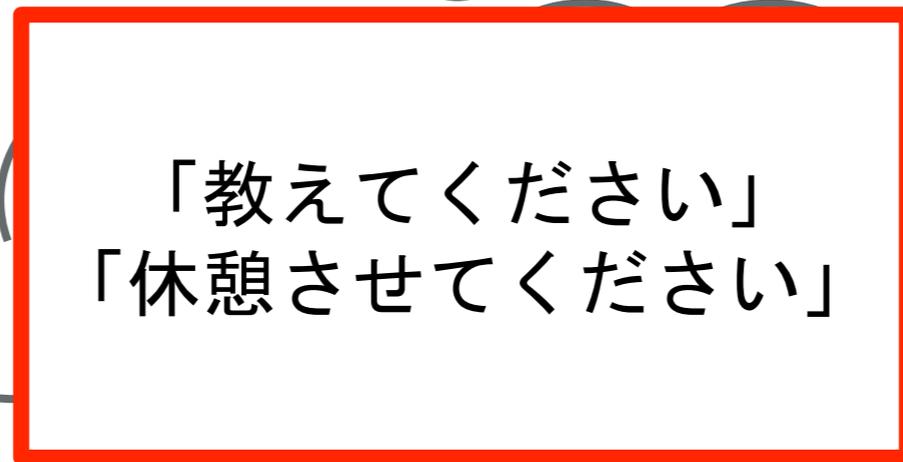
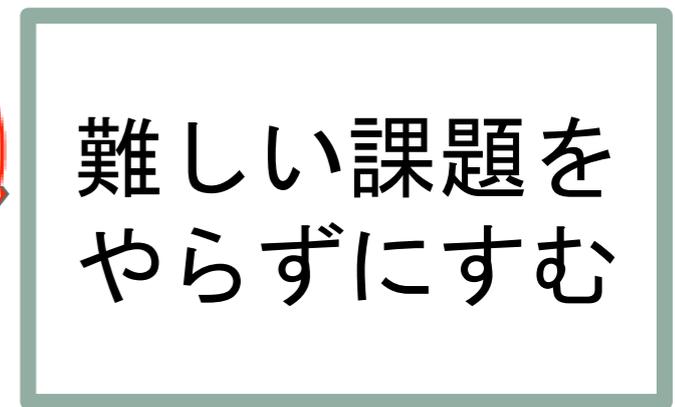
• せっかく嫌々ながらやっているのに本人なりのメリットがない
• かんしゃくや仮病の方が相対的にメリットが大きい

問題行動に対する対応の基本

問題行動のきっかけ



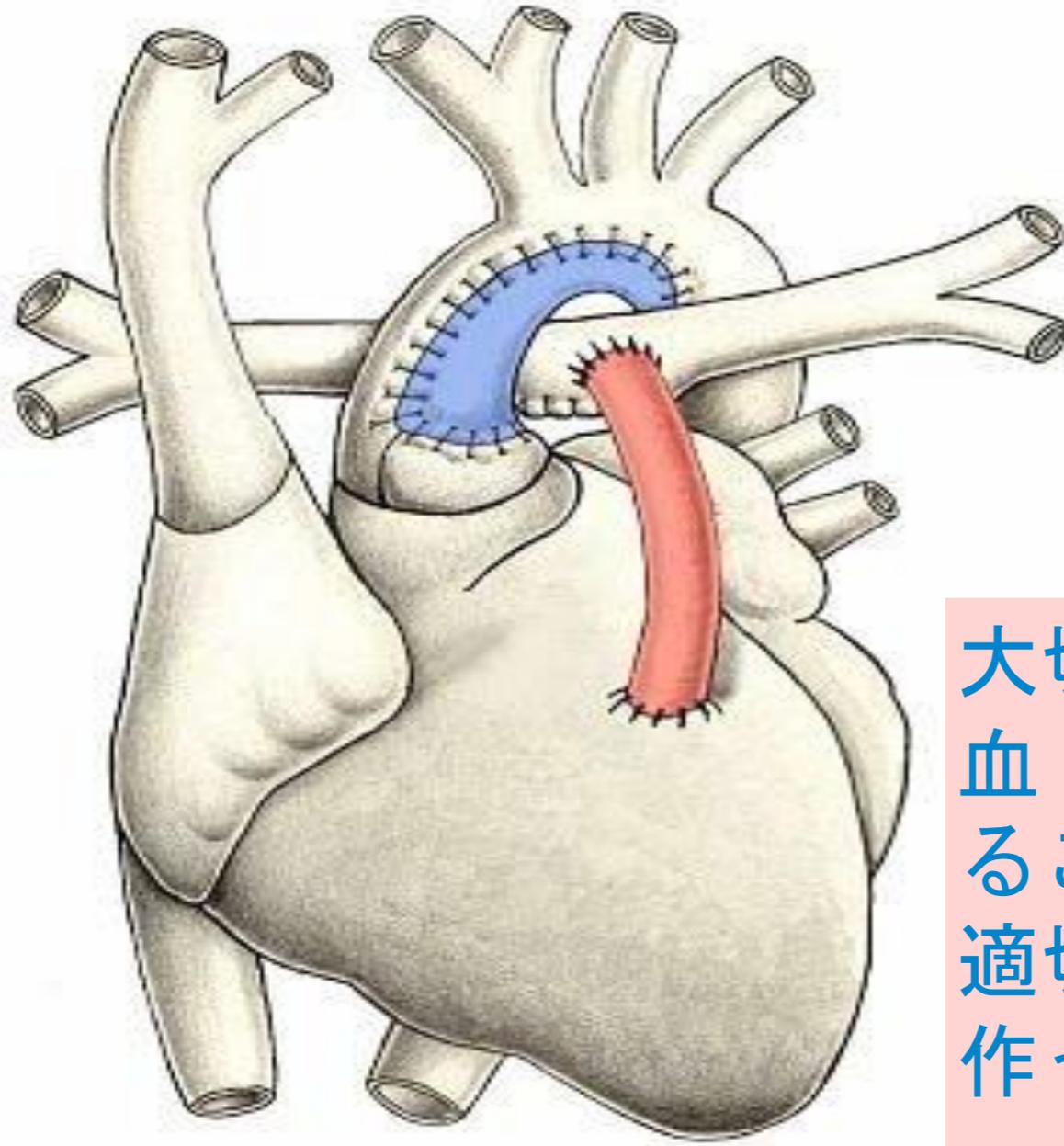
問題行動の結果



課題の難度や
量を調整する

問題行動をブロック適切な
要求には対応する

問題行動への対応は 「バイパス手術」のようなもの



問題行動には
その人なりの理由や目的、メッ
セージが込められています

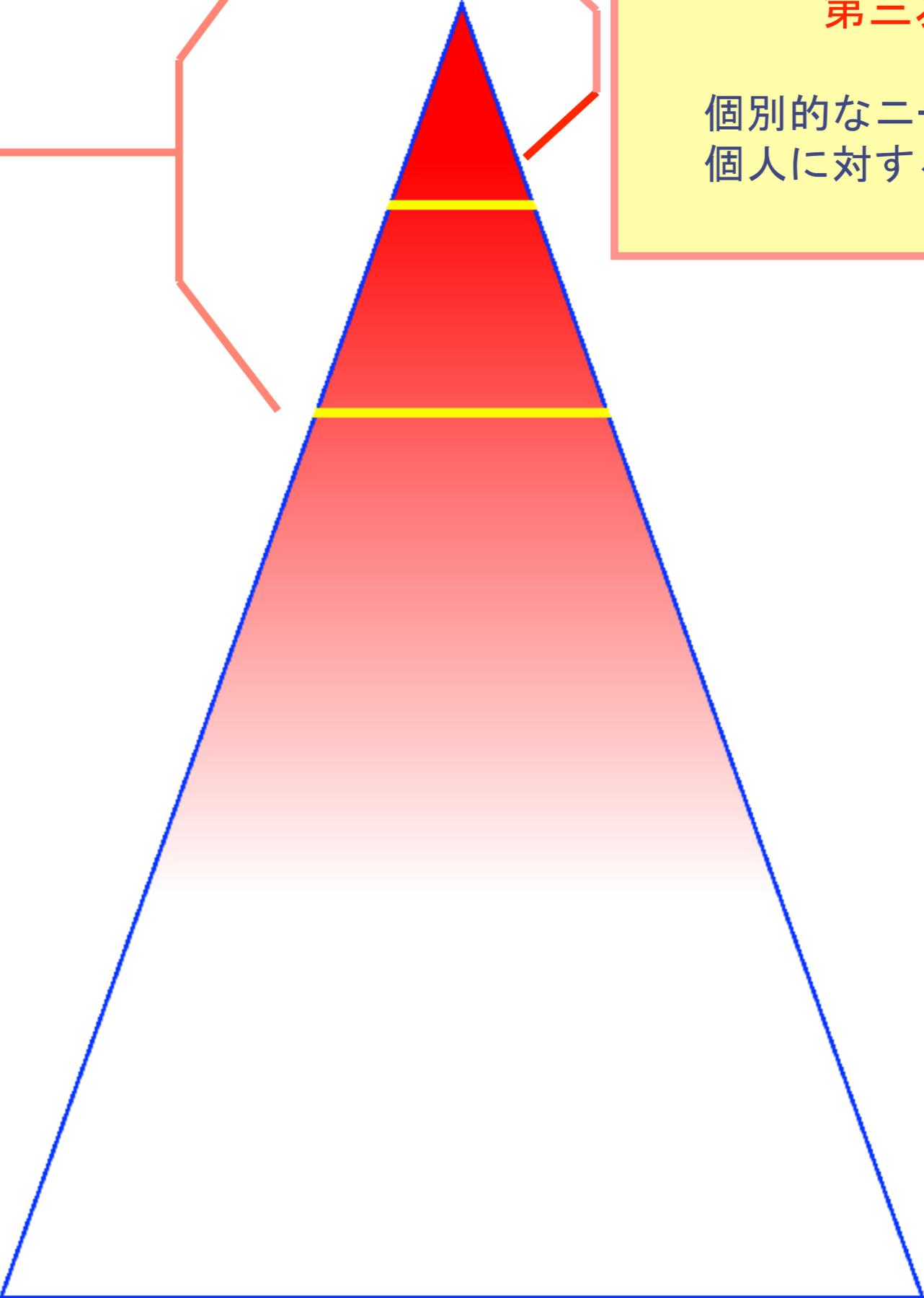
大切なのは
血（その人のメッセージ）を止め
ることではなく
適切な道筋を
作ってあげること

ポイント③

- 適応を支援するための環境設定

第二次支援
特定のニーズのある
グループに特化した
アプローチ

第一次支援
全ての利用者に対する
ユニバーサルな
アプローチ



第三次介入
個別的なニーズを抱える
個人に対するアプローチ

ユニバーサルな一次的支援

- 
- 
- 
- 

トークン・エコノミー

- トークン=お金の代わり
- 標的行動を決めて…
- ポイントを得るためのルールを決めて…
- バックアップ強化子と交換する
- 行動契約

トークンの利点

- トークンは飽きにくいので、頻繁に提示することができる
- 支援者の『ほめ忘れ』を防ぐ
- そのまま行動の記録になる
- 複数の関係者が関わる際の連携ツールになる

選択肢を提示する

-
-
-
-

ポイント④

- 新しいスキルを教えるための指導技術

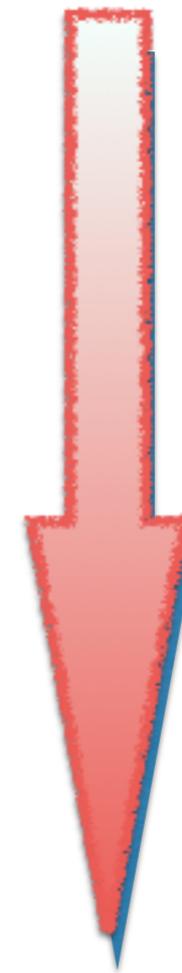
行動支援の本質は「教えること」

- ・ 利用者が適切に行動できないのは、適切な行動の仕方を知らないためであるかもしれない
- ・ 適応的な行動が増えれば、相対的に問題行動は減る
- ・ QOL向上のために必要な行動を教えて増やす

援助やヒント（プロンプト）の種類

援助の程度が小さい

- 1. 言葉かけ
 - 間接的な言葉かけ
 - 直接的な言葉かけ
- 2. 指さしや視覚的の手がかり
- 3. モデルを示す
- 4. 身体介助



援助の程度が大きい

援助やヒントを抜いていくテクニック (フェイディング)

- 援助の程度を 小→大
- 援助の程度を 大→小

行動をつなぎ合わせる方法 (チェイニング)

- ・ 前から順番につなげる

- ・ ①→①②→①②③→①②③④→...

- ・ 後ろから順番につなげる

- ・ ⑤→④⑤→③④⑤→②③④⑤→...

- ・ 一通り全部やってみて、それを繰り返して練習する

- ・ ①②③④⑤→①②③④⑤→①②③④⑤

スモールステップ

- ・ 目標をスモールステップで上げる（シェイピング）
- ・ 複雑な行動を細分化して教える

（課題分析とチェイニング）

ステップの考え方と指導の基本

- 各ステップは、誰が見ても同じ評価ができるような具体的な「行動」に設定する
 - 良くない例：～がわかる×～を感じる×～と思う×
- ステップの細かさは対象者の実態に合わせる
- できるだけ「お楽しみ」は最後のステップに
- 記録を取って、つまずいているところを把握する
- 援助とヒントを適切に使う

実践例（電車の乗り降り）

		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
1	改札口を通過する	×	×	×	△	○
2	ホームに移動する	×	○	○	○	○
3	電車に乗る	△	○	○	○	○
4	電車の中で適切に過ごす	△	○	○	○	○
5	「○○駅」で降りる	×	×	×	×	×
6	改札口を通過する	×	×	×	△	○

○→自分でできた

△→言葉がけや指さしでできた

×→身体的な誘導が必要だった

支援の最終ゴールは何か？

- 問題行動を減らすだけでいいのでしょうか？
 - それでいいのなら、極端な話、過度な投薬や隔離に頼ってしまう対応に陥ってしまう…
 - 抑制的で、あらゆる機会を奪ってしまう対応になりがち
 - 利用者さんが「何もしないこと」が目標になってしまう
- そうではなく、「生活の質」、「人生の質」（QOL）を高めることが支援の最終ゴール

行動のコントロールが最終目標ではない！！

大事なものは・・・

☆ 本人の生活の質の向上

☆ 本人の願いがかない、

豊かに過ごすこと

☆ 地域の中で安心して幸せに

生活すること

ご清聴ありがとうございました。